

【令和2年度 自己評価結果公表シート】

学校法人直江津龍谷学園 真行寺幼稚園

1. 本園の教育目標

(教育目標)

「浄土真宗の精神」にのっとり、宗教的情操の豊かな人材を教化育成することを目標とする。

(教育方針)

- 1) 「仏さまをおがむ子」 たくましい豊かな心をそなえた子
- 2) 「ありがとうの言える子」 感謝と協調のできる子
- 3) 「よく聞く子」 聞く態度を身につけ、探求と創造と自立を目指す子
- 4) 「なかよくする子」 助け合うことに喜びを感じ、仲間作りにはげむ子

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

1) (教育方針)「ありがとうの言える子」感謝と協調のできる子

①感染症拡大により、「いつも通り」が「当たり前」ではなく「ありがたい」ことだとあらためて気づかされた。

幼稚園に通えること、給食を食べることなど全ての生活において、「ありがたい」ことであることを子どもたちに気づいていただき、感謝し、その感謝が言葉や行動に表れるように育っていただきたい。

②感染症防止のため、マスクを着用しており表情がみえない。また、ソーシャルディスタンスのため触れ合う機会も少ない。そんな中でも相手の気持ちをくみ取り、寄り添えるよう育っていただきたい。

2) 教育の「質」向上のため 活動の見直し

これまで、子どもたちにとって良いと思われる活動を次々に取り入れてきた結果、毎日活動に追われているという現状に陥っている。

それぞれの活動を「ふり返る」、「考える」、「発展させる」という時間が少ない。限られた時間の中で、幼稚園でしかできないことを重点として活動を見直す。

子どもたちが自ら考え、意欲を持って活動できる時間を設ける

3) 安全管理

園内の活動や設備については、これまでも多くの時間を費やし、職員間で話し合い改善してきた。また、園児への指導についても十分な時間を設けている。

一昨年は、全国で登下校(園)中や校外(園)外での事件や事故が多くあった。

当園としても、園庭、境内、お散歩など、園外での保育の安全管理について見直す。

4) 新型コロナウイルス感染防止対策

感染症拡大防止のため、子どもたちに、マスクの着用や手指の消毒、手洗い、ソーシャルディスタンスなど身につけていただく。また、園内の机などの消毒なども徹底する。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	結果	理由
「ありがとう」の言える子を育む	A	様々な場面で、感謝が言葉や行動に表れている様子が見られた。 特に給食では材料に注目し、給食になるまでの「いのち」や「苦労」を考えるよう教員が働きかけ、子どもたちも共感実感し美味しくいただくことにつながっていた。食前食後の言葉も心をこめて合掌し言えるようになったと感じる。発展として、その材料について図鑑で調べたりする子などもあった。
教育の「質」向上のため活動の見直し	A	コロナ禍で行事や活動が制限された。感染症対策のため、全ての行事や活動を見直すことを余儀なくされた。その中で、子どもたちの健康と安全のため、改善することも多々あり、結果として「質」向上につながったと考える。 「ふり返る」「考える」時間を設けたことにより子どもたちのアイデアやオリジナリティが見られるようになった。特に、年中児のプランターでの野菜育てでは、いかにカラスに食べられないようにするかを子どもたちが一生懸命に考え、工夫をしている様子には驚かされた。
安全管理	A	園外の安全管理に注力をした。設備としては、新たに園外の防犯カメラを4台設置した。モニターも大きくなり、画像も鮮明となったため、安全管理、防犯対策につながっている。 コロナ禍で、園外での活動を自粛する期間が長く、お散歩や公園などへのお出かけも少なく、見直しを実行する場が少なかった。

新型コロナウイルス感染拡大防止対策	A	<p>マスクの着用に関しては、他園に比べて非常に高い着用率を達成している。外部業者、外部講師が驚くほどであり、年長児、年中児に関してはほぼ 100%の着用である。これまでも、冬季はインフルエンザ予防のため着用を徹底してきたことが、高い着用率につながっていると考える。</p> <p>給食時の会話についても、年長児、年中児は、ほぼなくなった。対策が実を結んでいる。</p> <p>その他、手指の消毒や手洗いなどに関しても、未満児であっても習慣としてしっかり身につけている。教員の指導の結果である。</p>
-------------------	---	---

4. 学校評価の具体的な目標や総合的な評価結果

評価	理由
A	取り組むべき課題について、全教職員が共通に理解し、実践することができた。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
教育の質向上のための活動見直し	<p>活動や行事に関しては、かなり見直しをしてきたが、まだまだ毎日活動に追われているという現状がある。再度見直し、それぞれの活動を「ふり返る」、「考える」、「発展させる」という時間をしっかり設けたい。限られた時間の中で、幼稚園でしかできない教育活動を行い、子ども達が自ら考え、意欲を持って活動できるよう育みたい。</p>
遊びの環境充実	<p>教室、ホール、園庭の「遊び」の環境について、より遊び込むことができるよう教材や配置を工夫する。</p> <p>コロナ禍にあって、運動不足が心配される。「遊び」を通して、運動能力と体力を育む環境の創意工夫に努める。</p>

<p>少子化による園運営の見直し</p>	<p>上越市でも急速な少子化が進んでいる。長期的な園運営方針を見直し、充実した教育環境を持続させるとともに、より一層、教育の「質」を高める。</p>
----------------------	--

6. 学校評議員の評価

令和3年2月13日（土）に眞行寺本堂において、令和2年度「学校関係者評価委員会」（11名出席）が開催された。

教育や保育に関しては特に指摘すべき事項はなく、妥当であると認められる。

（以下、委員からの意見・要望など）

- ・「建学の精神」である仏教をさらに教育や保育に取り入れ、園児や保護者はもちろん眞行寺や御門徒、さらに地域を巻き込んで、多くの人々が「心豊かに生きる」ことができるような取り組みを行って欲しい。

- ・当園の歴史と伝統を受け継ぎながらも、現代のニーズや技術を取り入れ、特色ある教育や環境を整えていくことが大切である。

7. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。

以 上